

# 中小建築の液状化対策提供

## 兼松日産農林のLP-LiC工法

兼松日産農林(東京都、高崎實社長)は2月から、LP-LiC工法(丸太打設液状化対策&カーボンストック工法)の提供を始める。同工法は同社のほか飛鳥建設、昭和マテリアルの3社で開発を進め、液状化対策工法として建築技術性能証明と技術審査証明を取得している。

### 丸太打設でカーボンストック効果も

兼松日産農林は、環境パイル(S)工法協会とグラントユニオン会員企業に対し、2月から新たにLP-LiC工法の提供を始める。同工法は、地下に浸った砂質地盤が強い地震動によって液体のように流動化する液状化の対策として開発された。今年4月からは低振動・低騒音の小型圧入専用機で施工するうえ、掘削を行わないため残土が地表に発生しない。このため小規模の戸建て分譲地や住宅でも効果的な液状化対策が講じられる。



長野県諏訪市で行われたLP-LiC工法の実験

地盤専門業者も液状化ハザードマップを公開して、防災意識を喚起している。液状化対策工事は比較的大規模な土木・建築工事や公共施設に用いられることが多かった。しかし、同工法では低振動・低騒音の小型圧入専用機で施工するうえ、掘削を行わないため残土が地表に発生しない。このため小規模の戸建て分譲地や住宅でも効果的な液状化対策が講じられる。

度増大工法と同等以上の液状化被害抑制効果を示す。また丸太を地中に埋め込むため、大気中の温室効果ガスの削減にも寄与する。共同開発した飛鳥建設や昭和マテリアルは独自に普及を始めているが、兼松日産農林でも年間約1万立方分の丸太杭に利用する方針だ。

環境パイル(S)工法協会(兼松日産農林を含み13社)は、木製杭(環境パイル)を用いた地盤改良事業を行っている。圧入専用機で地中に丸太杭を無回転圧入し、補強材の支持力と地盤の支持力で平面地盤補強を実証している。

グラントユニオンは地盤改良のプロ企業で構成する組織(兼松日産農林を含み14社)。第三者性能評価機関により認証された工法を積極的に採用し、安心の認証工法・地盤保証を提案している。

従来からのサンドコンパクション工法などの密